

# 巻頭言

創立40周年記念号に寄せて

代表取締役

豊田 運郎



「西暦2000年」という区切りある年に、豊田中央研究所は創立40周年を迎えることができました。ミレニアムを迎える今、まさに世界はさまざまな分野でうねりの中にいます。

自動車産業も例外でなく、先進国市場の成熟化や環境と安全問題を背景に、かつてない世界的規模での熾烈な競争化の中で、当所がかかえているテーマも多岐に渡り、直面する課題も多くあります。

当所は1960年に、トヨタグループの基礎研究を担い、応用開発・応用展開に寄与するために創立され、それ以来、新技術の開発とさまざまなニーズへの対応に真摯な気持ちで取り組んできました。厳しい時代の今こそ、「当所のめざす姿は”研究をビジネスとする”世界一流の企業研究所」という研究所全体の共通認識のもとで、設立の原点に立ち返り、ひとりひとりが「情熱」と「執念」を持ち、大胆かつ自由に発想し、迅速かつ積極果敢な行動をとらねばなりません。

当所には、トヨタグループの未来を切り開くために、新しい産業の芽につながるような研究開発で世界のパイオニアになり、トヨタグループの研究開発をリードする役割が求められています。当所の研究がトヨタグループ各社の競争力ある製品作り、ひいてはビジネス拡大に貢献できるように、大きな発明やアカデミックインパクトを創出し、存在感の高い研究所を実現することが重要です。

一方、企業として人、社会、環境、世界との係わり合いを強く求められる中で、未来に目を向けた研究開発に努め、住みよい地球と豊かな社会作りに貢献し、信頼される企業を目指したいと思えます。

最後に、装いを新たにしたこの「豊田中央研究所R&Dレビュー」が「世界一流の企業研究所」にふさわしい論文を掲載し、今後とも皆さんにご愛読していただけることを願ってお祝いの言葉にします。